

家庭科，技術・家庭科では，生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせながら，生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して，生活を*工夫し創造(よりよくしようと工夫)する資質・能力を育むために，課題の解決に向けて考えを構想したり表現したりする学び合い活動の充実が求められます。 * ()内は小学校家庭科

<指導例> 技術分野 内容A 材料と加工の技術 第1学年 題材名「身の回りを整理するものをつくろう」

<ねらい> 使用の目的や条件に応じて製作品に必要な機能を検討，工夫することができる。

設計図で構想を具体化する際に再検討が必要な場合

設計の学習過程 ①問題の発見 → ②課題の設定 → ③製作品の構想 → ④構想の具体化

「③製作品の構想」段階において，深い学びを実現するためには，生活上の問題を「材料と加工の技術」との関わりから，安全性，耐久性，機能性，生産効率等の視点で捉えさせることが大切です。

本時では，グループを同様の課題を設定した生徒同士で編成しています。課題に応じた見本の製品をそれぞれのグループに示し，実際に操作させながら問題点に気付かせるようにします。



技術の見方・考え方を働かせながら，問題を見だし改善策を検討している学び合い活動の例
(T:教師 S:生徒) 下線部は技術の見方・考え方を働かせている姿

ポイント 具体的な使用イメージをグループや全体で共有し，使いやすさ(機能性)に着目させることで学びを深めます。

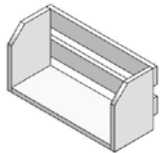
<問題点及び原因の共有化>

T: 見本の製品を使用してみて，気が付いたことをグループで出し合ひましょう。

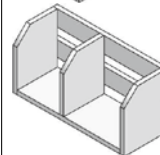
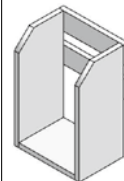
<本立てを考えているグループの場面>

S1: 見本の本立てだと，教科書やワークが倒れやすいね。

S2: 本立ての高さに教科書などが合っていないからだよ。



<改善策の検討>



T: 出された問題点について，もっと使いやすくするにはどうすればよいか検討しましょう。

S3: 見本の本立ては横長型だけど，縦長型にすれば倒れにくくなるよ。

S1: でも縦長型だと横長型に比べて収納できる本の数が少なくなってしまうね。

S2: 横長型でも教科書などが倒れないようにするために仕切りを付けたらどうかな？

S3: なるほど。仕切りがあることで教科書やワークを分類して収納できるようにもなるね。

改善策の検討場面で使いやすさ(機能性)を視点とし，技術の見方・考え方を働かせた学び合い活動が展開されることで，個々の課題解決に向けた「構想の具体化」が図られ，生活を工夫し創造する資質・能力が育まれます。

